



5 親子虎図(三蟲之図卷のうち) 横山華溪 一巻

江戸時代(十九世紀) 紙本着色 縦三四・八

横山華溪(一八一六〜一八四四)は、岸駒の門人である横山華山の
子とされる岸派の絵師で、人物、花鳥を得意としたと言われる。
岸岱が岸駒の癖のある描法に加え、四条派の穏和な画風も学ん
で取り入れたように、岸岱と同時期に活躍した華溪もまた、応
挙の画風に影響されたように細密で写生的な描写を行い、その
作品は鮮やかな色彩にも特徴がある。

本図は、様々な動物、鳥、昆虫類が連続的に描かれる図巻の
一場面で、山間を勢いよく流れる川を、虎の親子が渡る姿を描く。
子供の虎をくわえてまさに急流を飛び越えているのは雄の虎で
あろう。すでに川を渡り終えているのは雌虎、対岸へ渡るのを
待つ子虎が背を向けて描かれている。江戸時代も後期に入ると、
虎図のバリエーションが広がり、竹虎図、龍虎図といった伝統
的な図様にはとられない描写が見られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections